新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

今週の紙面

■2面　選択的夫婦別姓／女性ニュース／国会　■3面　読者のページ／まんが／短歌　■4・5面　都議選　暮らし守る東京に／ジェンダー講座／ホット　■6面　転倒を予防し元気に／母の歴史　■7面　子ども医療費無料化／主張／いま教室で

鹿児島市　上脇陽子（83）

選択的夫婦別姓法案の本格質疑が6月4日、28年ぶりに衆議院法務委員会で始まりました。今国会で何としても成立を、これ以上の先延ばしは許されません。（関連2面）

The personal is political

個人的なことは政治的なこと

いつまで待たせる選択的夫婦別姓

夫婦別姓賛成議員に投票しよう

法政大学名誉教授　田中優子

国会での選択的夫婦別姓制度についての法案審議は28年ぶりです。法務省の法制審議会答申から29年、最初の国会請願が出されて50年です。

新婦人は今年「ただちに導入を」と請願署名にとりくみ、紹介議員は与野党119人となり、署名9万人分を国会提出しました。当事者3976人分のアンケート結果の声を各地で地元選出議員へ届け、地方議会への意見書運動や広範な人びとと連帯して毎週水曜日の議員会館前集会などに参加。野党がバラバラに法案を提出する中、あきらめずに実現のためにできることをしよう、誰が妨害しているのか見抜いていこうとたたかいをひろげています。

水曜日行動をよびかけてきた「平和を守り軍拡を許さない女たちの会」代表の田中優子さんから寄稿していただきました（左）。

選択的夫婦別姓を求める水曜日行動で、スピーチする田中優子さん

当事者の思いをリレートーク
（写真はすべて6月4日、国会前で）

夫婦別姓は人権問題

「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」は2025年3月に「選択的夫婦別姓法制化に反対の議員は選挙で選びません」との声明を発表し、4月4日に記者会見を開きました。23日には衆議員議員会館前での集会を広く呼びかけ、その日から毎週、水曜日夜に集会を行っています。

なぜ軍拡反対の会が選択的夫婦別姓に力を入れているのかと言えば、どちらも人権の問題であり、どちらも憲法違反だからです。問題の「地」、つまり大きな背景としては、世界規模の差別と人権問題があります。その中での普遍的な差別は女性差別です。いまだにどの地域でも、女性は子どもを産む道具と考えられ、家庭内無償労働の担い手か、売春の担い手として扱われています。一旦戦争が起これば、女性は兵士の性奴隷か、銃後の家族を支える駒か、国によっては男性兵士の不足を補う兵士にもなります。

日本では戦前、家族は兵士を産み育てる必須の存在でした。家父長制度のもとで男性が家族に命令し、その男性たちに天皇が命令することで、国家総動員法が成り立ったのです。

婚姻も個々の決定で

戦後日本が新たな憲法を持つようになった時、初めて家父長的家族制度は消滅し、男女は平等になり、婚姻も個々の決定で行えるはず、でした。しかし、戦後だいぶ経った今日、それが壊れようとしています。

第二次安倍政権以降の日本は戦後憲法の国ではなく「国体」という言葉が飛び交う国になっています。国体とは主権者を天皇とし、臣民が天皇の司令で生きて行くありようのことです。教育に天皇の命令である教育勅語を導入しようとしたり、首相がそのような学校建設に賛意を示したことで、官僚が国有地を値引きしようとするなど、信じがたい動きが起こるようになりました。そこに私は、戦前日本に生きていたゾンビの蘇（よみがえ）りを感じています。選択的夫婦別姓を批判するX（旧ツイッター）には「認めたら国体が壊れる」という投稿も見えます。国体などもうとっくに無いのに、現実に直面できず幻の中に生きる人々がこの世に出現していることが、わかります。

思い込めたボードを掲げて

なぜ現実を見ないのか

「戸籍がなくなる」というデマも、意味をなさない旧姓使用への執着も、どうでもよい戸籍筆頭者へのこだわりも、全て現実生活からかけはなれた「権力幻想」と、それにしがみつく異常な心情です。なぜ現実を見ないのだ？　と疑問だらけなのですが、もしかしたら日本の男性はずっと、家父長幻想の中で生きてきたのかも知れません。それが権力欲や支配欲や政治力と結びつき、自民党議員西田昌司氏の「ひめゆりの塔」発言が飛び出してきました。歴史さえも自分の都合のいいように変えたい、変えられる、というとんでもない暴力的妄想です。

これは前述した問題の「地」つまり世界規模の差別と人権問題から生まれた「図」です。ここには戦前のゾンビがいます。私たちはゾンビを墓に戻すために、今は「夫婦別姓賛成議員に投票しよう」と呼びかけています。生きているまともな人を、国会に送りましょう。

発行所　新日本婦人の会　〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20 電話03(3814)9141(代)
New Japan Women's Association　編集部 03(5805)2370/Fax 03(5805)2372 振替00150-7-74582　1部105円　月410円（いずれも税込み、送料別）、会員は会費に含む
https://www.shinfujin.gr.jp
©新日本婦人の会2025年
入会はこちら